

「房はづす」

久根美和子

向日葵やマーチだんだん恐ろしく

M・R・Iの中は戦場草田男忌

肉体は危ふき器水蜜桃

ごしごし洗ふ恋の蝗捕へし手

石の戸や獣舎のひとつ空つぽに

人に戻る呪文忘れし芒原

メメント・モリ霜枯の八島湿原

秋冷や木霊が淵に帰りたる

霧の宿瑠瑯引きの洗面器

マフラーをきつく平和な首根っこ

ひひらぎの花のこぼるるほどの笑み

凜凜と星またたくは凍てぬため

霜月祭仮寝の夢に猿田彦

手袋は軍手のみとふ一世かな

荒星やことば紡ぐに日々祈り

春遠からじ木立花椰菜ブロッコリーの房はづす

死と隣る冷えか雛櫃いでし雛

味噌玉の土偶に似たる貌吊す

野火放つ建御名方を遠っ祖

轉に地祇の応へてをりにけり

啓蟄や蛇腹開きに道路地図

コピー機の釣銭じやらら春休

指かけて開くる桃缶三鬼の忌

刻むべく墓碑に余白やたびら雪

藤房や弥陀は掌あけて待つ

夏至タベ鏡を夫の素通りす

赤松の宿す女性によしやうや梅雨の月

フルートのひんやり重し雨蛙

緑陰に波の音する絵本かな